

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月9日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0390200079		
法人名	社会福祉法人若竹会		
事業所名	グループホーム サンフラワー		
所在地	〒027-0048 岩手県宮古市板屋4丁目4番2号 (電話) 0193-64-3200		
評価機関名	特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年11月17日	評価確定日	平成21年2月9日

## 【情報提供票より】(平成20年10月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板ぶき平屋建 造り		
	1 階建ての		1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34,500 円	その他の経費(月額)	理美容代・おむつ代実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	260 円	昼食	260 円
	夕食	260 円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

### (4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.1 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩手県立宮古病院、社団医療法人新和会宮古山口病院(歯科含む)
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームサンフラワーは、周辺に公園や住宅、交番、小学校やスーパーがあり、また緑が豊かで静かな環境にある。開設して日は浅いが、自主的に職員と利用者が公園のごみ拾いを行っており、地域の話題となっている。また、職員体制を工夫して夜間は2人配置し、緊急時等の対応への安心感や職員の負担軽減につながっている。職員は、利用者の健康管理や身体介護だけではなく、利用者の生活歴や個性から一人ひとりの願いに向き合い、その気持ちを尊重しながら支援している。さらに「ISO9001」の認証取得を目指しており、法人のバックアップを受けながら意欲的に取り組んでいる事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を全職員に配布してそれぞれが検討し、管理者を中心にしてまとめ上げている。評価の取り組みを通して意義を理解するとともに、見出された改善点等をサービスの向上に努めることとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会長、民生委員、包括支援センター、家族と利用者の代表、施設長及び事務局等で委員が構成されており、2ヶ月に1回開催している。利用者の暮らしや支援の状況、ホームの活動状況などが話し合わせ、質問や意見として出された内容では、食中毒予防のための殺菌方法、排泄誘導、睡眠の方法などの改善に取り組んでおり、会議を有効に活用してサービスの質の向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご意見箱を設置して、家族からの意見、不満、苦情を表せる機会を設けている。また、運営推進会議や面会の際に聞く機会をつくり、そこでの意見を運営に反映している。なお、ご意見箱を設置しているが、開設後現在まで投書の実績はない。今後家族とのコミュニケーションを深めていくなかで、率直にやりとりができる協働的な関係づくりが期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の自治会に加入し、沿道の花壇づくりをはじめとして積極的に地域活動に参加し交流を深めている。また、地区子供会との交流や小学生の下校時に散歩に出て声をかける活動を通して、下校時に小学生が遊びに寄るようになるなど、地域の子どもたちとふれあう機会も大切にしている。自主的に取り組んでいる公園のごみ拾いには近所の人たちも徐々に参加するようになり、近隣住民の共感が得られると同時に、利用者にとっても清々しさや充実感が感じられる活動となっている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を目標に、次に、福祉施設サンホーム宮古の運営の方針を柱として、その実践に向けて6項目の事業推進目標を全職員でつくりあげている。このほか、日々の実践で職員が意識するものとして事業所の職員心得が定められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業推進目標(理念)は全職員で討議作成しており、目標を共有している。また職員間の話し合いでは、「こころよい生活とはどういうものか」というテーマで職員一人ひとりが考え、出された意見を全員で共有して、事業所が目指すべき方向性の素材としている。	○	職員一人ひとりの意見から理念を検討することは、「自分たちの目指したいこと」として、職員個々の日々の実践への反映が期待できる。法人の理念と照らし合わせながら、今後ぜひ職員間の話し合いを継続してもらいたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の自治会に加入し、沿道の花壇づくりや敬老行事などの地域活動に参加しているほか、ホーム内でコンサートを開催するなど、積極的に地域との交流に取り組んでいる。また、利用者と職員は一緒に近くの公園のごみ拾いを自主的に行うなど、地元の人々との交流と融和に努めている。	○	自主的に取り組んでいる公園のごみ拾いは、利用者の方々の意欲につながっているほか、近所の人々が一緒に行うようになったことにより、住民同士の連帯感や地域活動を促進するものとして、その意義は大きい。今後も、高齢者支援における地域全体の意識づくりのきっかけとして、日常的な地域活動を継続されるよう期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は全職員で実施しており、評価の意義を理解するとともに、見出された改善点等をサービスの向上に努めることとしている。また事業所独自の定期的な自己評価と法人内監査を半年に1回実施しており、6つの事業推進目標に沿って振り返りを行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	委員は、自治会長、民生委員、包括支援センター、家族と利用者の代表、施設長及び事務局等で構成され、2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や活動状況を報告している。「会議のあり方」や「サービス内容」などの意見や要望をサービス向上に活かしている。	○	事業所として動きの少ない時期には会議で得られる意見も少なく、会議の持ち方に若干の課題を感じている。事業所に対する意見のみならず、地域の話や参加者それぞれの立場での苦労話や喜びに焦点をあてることで、これまでと異なる意見が得られるかもしれない。地域と協働していく一つの場面として、柔軟なテーマ設定の検討を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協会の沿岸北ブロック会議などで行政担当者との連携の機会をつくり、サービスの質の向上に取り組んでいるが、行き来する機会は少なく、事業所ではより関係を深めていきたいとの思いがある。	○	ホームの考え方や利用者状況への理解を深めてもらうためにも、市職員の研修場所としてホームを活用したり、職員や利用者との交流を図る場面づくりなど工夫されることを今後期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の最近の様子や健康状態、本人からの伝言などを手紙にして、2か月に一度個別に報告している。加えて、運営推進会議の結果についても家族へ送付している。また、金銭管理については、出納簿の写しと領収書の原本を添付して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会の際に意見等を聞く機会をつくり、運営に反映している。また、相談窓口やご意見箱を設置して、家族からの意見、不満、苦情を表せる体制を整えている。なお、開設後現在まで投書の実績はない。	○	家族からの意見はサービス向上の機会として重要なものと考えられる。忙しくて事業所になかなか来れない家族もある状況だが、まずは利用者の生活状況や事業所に対する関心を寄せてもらうために、コミュニケーション方法の検討や報告内容のさらなる工夫などを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設から1年経過した現在までは、異動や離職者は無く、利用者にとって安心できる体制となっている。また職員体制が工夫され、夜勤を2人にしているなど、職員の負担軽減につながっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画を作成しており、必要な研修を受講する機会を確保している。また、管理者が育成担当者となって、スキルチェックにより職員個々の得意・不得意を確認して、職員が目標を持って研修に取り組むことのできるよう積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会沿岸北ブロックの研修会に参加しているほか、地域の同業者を訪問して情報交換を行い、交流を図っている。経験の多い事業所から学ぶことが多い反面、自分たちの良さや特徴を知ることができる機会ともなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	開設が予定より遅れたため、利用者が入居を待つ期間があったが、その間を含めて事前の情報収集は十分に行っている。入居後も、緊張感を和らげるため居室も使い慣れた家具調度品を配置するなどして、ホームに馴染めるよう家族と相談しながら工夫して取り組んでいる。	○	開設当初では利用者にホームの体験をしてもらうことはできなかった。これからの利用者には、家族、関係者と連携をとり、利用前にホームに来てもらい、他の利用者や場の雰囲気に馴染めるように工夫しながら取り組みたいとしており、今後に期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から味噌づくり、切り干し大根など生活の技を教わるほか、お手玉をしたり、昔話を聞いたり、共に過ごす中で学んだり支えあう関係を築いている。利用者のお金をかけない暮らしの知恵は、「もったいない精神」を思い出させるものとなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は常に利用者の思いに耳を傾けるという姿勢と態度で寄り添いながら、意向の把握に努めている。意向の把握が困難なときには、日々の行動や表情、断片的な話から汲み取り本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議で、本人の可能性や暮らし方について話しあい、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。本人の願いや意欲、役割を盛り込み、個性の見える介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングの過程で毎月計画の評価を行っており、本人の状態に大きな変化があるときは家族の了承を得て計画内容を変更している。また日々の出来事から本人の意向の理解が進んだときには、その意向を計画の項目に載せて、対応を検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	散歩や買い物など日々の外出に関して柔軟に対応している。特にボランティアが説明しながら先導する「地域の神社めぐり」は要望が多く、月2回程度実施している。このほか、家族が利用者の居室に泊まりたいなどの希望に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医にかかることを基本に、定期の通院は家族の付き添いを原則としているが、家族の要望や利用者の状況に応じて、職員による通院支援や、協力病院への受診とする場合もある。そのような場合には、医師へ利用者の状況を丁寧に説明し、良好な関係を築きながら適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、医療機関での対応を基本としている。現在は検討を要する利用者もなく、本人や家族からの明確な要望もないが、本人および家族、そして医療機関とコミュニケーションを深めながら、できる限りは対応したいとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないように言葉掛けや態度に注意し、カンファレンスにおいて職員間で確認しながら対応している。個人情報についても、保管場所の工夫やケース記録などはイニシャル表示で管理するなど配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活のリズムは「私の時間の過ごし方」として一人ひとり把握しており、御詠歌を歌うなど、これまでの習慣を継続した生活となるよう支援している。また利用者の生活歴をその人の物語として捉えることで、個性の理解につながり、職員は利用者に関わりながら理解を進めていくことにやりがいを感じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から準備、後片付けまで利用者一人ひとりに定着した役割があり、職員と一緒にしている。また、ほとんどの利用者がよく食べ、「おいしい」「ありがとう」といった言葉が飛び交う食卓となっている。訪問日当日も和やかな食事の光景が見受けられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕食後から就寝前に入浴する習慣となっており、要望に応じて毎日入浴することも可能である。また、夏場は朝の涼しい時間帯にシャワー浴が実施されている。日中に活動した後の入浴支援により、夜間の安定した睡眠支援にもつながっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いのある日々を過ごせるように、生活に密着した役割を持てるよう支援している。また、花見や紅葉狩り、誕生会等の行事で楽しんだり気晴らしできるように工夫して支援している。加えて、毎日全員で教育勅語と一緒に朗読し、それぞれが子ども時代の心情を思い起こす場面となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の思いや希望に沿いながら、日々の散歩や食材の買い物にでるほか、近くの公園の清掃活動、畑仕事、梅干づくりなど外出と同時に経験や知恵を活かして充実感を得る場面を作っている。外出には意欲的な利用者が多く、全員で出かける機会も少なくない。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は施錠せず、センサーによって出入りを把握している。利用者が外出しようとする際は職員が見守りに対応しているが、職員が気付かなかったときのことを考えて、今後徐々に近隣住民にも気にかけてもらえるよう働きかけていきたいとしている。	○	地域住民による高齢者の見守りは地域にとっても大きな課題と思われる。公園の清掃活動など日常的に顔をあわせる機会を重ねることで、住民の親しみと関心を育てていきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自衛消防隊を組織し、2ヶ月ごとに避難訓練を実施して利用者が昼夜を問わず避難できる方法を身につけている。さらに、自治会長に立会を依頼するなど地域との協力が得られるよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日利用者の食事や水分の摂取状況をチェック表に記録し、職員が共有するほか、利用者の嚥下能力や習慣にも配慮した食事形態を検討している。また、同法人の栄養士からメニューをチェックしてもらい、食材に変化をつけるなどのアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広めのリビングには、食堂としてのテーブル、くつろぎのソファが置かれているほか、小上がりも設置されていて、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。小上がりはリビングの中央付近にあるため、多くの人を招いての行事の際にはちょっとしたステージのように使うこともできる。また各所に花や絵を飾り季節感を感じながら過ごすことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた筆筒などの家具や、テレビなどが配置されているほか、リクライニングチェアを設置している利用者もある。また、家族の写真や好みのぬいぐるみなどが職員の支援によりきれいに飾られている。不安定な症状のある利用者の居室には「安心してください」と記載したシートを貼り、不安なく過ごせるよう工夫している。		